

3月 定例
取手市議会
(3/1~18)

新型
コロナ

PCR検査補助、隔離施設の確保 医療機関に減収補てんを

日本共産党

開催中の取手市議会は、2021年度一般会計予算案(368億円)をはじめ、予算・条例など市長提案の議案27件、同意・諮問案3件。市民・団体からコロナ関係などの請願5件、議員提案の意見書4件などを審議。一般質問では19人の議員がそれぞれの立場から市長の政策を質しました。最終的な議決は議会最終日の18日です。

日本共産党は、市民と共同、コロナ対策、暮らし営業を守る市政に全力を尽くしています。

3月議会提出の請願・意見書

請願 <共産党議員紹介>

- ▼保育所等での消毒・清掃の必要経費や人員配置、慰労金など支援を求める請願
- ▼公共施設休業・イベント自粛で収入が減少した事業主(個人事業主)への支援金に関する請願
- ▼加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助を求める請願
- ▼「最低賃金の大幅引上げと中小企業支援対策の拡充を求める意見書」採択の請願書

<創和会議員紹介>

- ▼取手駅東口喫煙所における受動喫煙防止を求める請願

意見書 <共産党提案>

- ◆75歳以上の医療費窓口負担1割から2割への引き上げ撤回を求める意見書

<無会派クラブ提案>

- ◆新型コロナウイルスワクチン接種に関する意見書
- ◆生活保護を必要な人が必要な時に受けられるよう制度の見直しを求める意見書

<傍聴席>

市長室にトイレあっても 子どもクラブにトイレないの

請願が採択されて10年超、いまだ実現しないことから、昨年12月議会で再び請願を全会一致で採択。誰もがトイレ設置を疑いませんでしたが、予算化はありません。トイレ設置を求める遠山ちえ子市議に、市は「隣接する体育館のトイレを使用して頂く」と答弁。子どもへの愛情を感じられないものでした。「市長室にトイレがあって、定員100人の子どもクラブ室になぜないのか」との遠山市議の抗議は、子どもと市民の抗議の声です。

清田伸治(桐木)

異を認めぬ行動からは 活力も生まれない

私は、生まれも育ちも取手で。議会傍聴は欠かさず参加してきました。議会の移り変わりも見してきました。昨今の議会は、30分の質問で答弁も紋切り型。市長には市民の声に耳を傾ける姿勢もうかがえず、指示待ち対応で積極性が感じられません。

「コロナ禍」の中、検査や医療、暮らしについて「取手市」としての政策対応を市長答弁ではっきり聞きたいです。異を認めぬ行動からは活力も生まれないと思います。

武藤千鶴子(青柳)



工事中の「暫定駅前広場」に接する場所に残された1棟のビル(奥に駅ビル)=3月8日撮影

取手駅北土地区画整理事業(基盤整備)は、2022年度中の完成を予定し、現在、一部権利者の同意が得られないビル一棟を残し暫定交通広場の整地工事が行われています。

工事は遅れ、暫定広場の終了は今年の秋ごろを予定しています。その後駅前交通広場の本工事を行い22年度末までの駅前広場の竣工で、区画整理事業の完成となります。しかし、一部権利者の所有地を除き同意のないままの工事は、さらに駅前広場の整備に困難を招くことになると考えられます。

市長の失政 権利者の同意得られず

- 事業進捗には問題点が多く
- 20人のA街区権利者の100%の同意を得られず。
- A街区の1部建物を見切り発車で7年前に解体。
- 区画整理後のA街区再開発事業(タワーマンションなど)の

合意も得られていません。今、市長が果たすべき責任は、この間行われてこなかった権利者の同意を得るための協議に全力を尽くすことです。

仮換地指定整わず「換地計画」未決定

A街区の権利者全員への仮換地指定(所有地の移転先指定)ができず「換地計画」の決定と県知事への認可手続きも出来ていません。問題を解決しなければ、駅前広場は変形のみとなり事業は完成に至

らず市の責任が厳しく問われることになります。

巨額の税金を投入してきた事業の最終段階で更なる事業の遅れによる事業費の膨張は許されません。

日本共産党は

にぎわいと活力
安全・快適な駅前広場を

駅周辺の賑わいと活力回復、安全・快適な駅前広場の速やかな整備へ、権利者・市民の合意形成に市長の責任ある対応を強く求めます。

区画整理と再開発事業一体の整備計画を断念し、市は再開発事業からの撤退を求めます。

2022年度末
駅前広場竣工予定?
取手駅北土地区画整理完成と言うが

「取手駅西口開発」を問う

シリーズ③

水道料金的大幅値上げを計画する
県南水道企業団（龍ヶ崎市内）



「コロナ禍」の下で 県南水道34%の大幅値上げ方針

取手・牛久・龍ヶ崎・利根の3市1町で構成する茨城県南水道企業団（企業長藤井信吾取手市長）の諮問に基づき、水道運営審議会は令和2年12月に水道料金的大幅値上げを主とする答申を行いました。

審議会が“値上げ”を答申

茨城県南水道企業団の広報紙（令和3年3月1日発行）が3月はじめ各戸に配布されました。令和元年8月30日企業長藤井信吾（取手市長）氏は「施設の更新にかかわる財源の確保について」の意見を求め審議会（坂野吉隆会長）に諮問。広報紙には、具体

的な料金値上げに直接触れていませんが、同審議会は、令和2年12月までに7回の審議会を経て、諮問趣旨に基づき令和4年度からの23%料金値上げ、さらに令和8年度に現行料金の34%の引き上げについて答申しました。

高すぎる県水道料金（卸値）引き下げこそ

無駄なダム建設の付け住民に転嫁するな

答申は、「人口減少に伴う給水収益の減少」が進む中での「老朽施設の更新・耐震化」の財源に料金値上げは避けられないとしています。高い水道料金のおおもとの過大な人口想定に基づく国や県の水需給計画と自然破壊のダム建設を容

認してきたことへの指摘もありません。埼玉県などが「日常生活に必要な水量が確保されている」と、霞ヶ浦導水事業から撤退する中、茨城県は継続しています。

値上げストップ 暮らし守る共同を

過大な水資源開発で水余りを生み出した国・県に対しては無批判、一方的な住民への負担増は認められません。値上げの可否は、令和3年中の県南水道

議会に諮られる予定です。過大な水資源開発による余剰水押しつけに反対、水道料金引き上げストップへ共同を広げましょう。

「県南水道料金値上げストップ！」 住民学習集会

4月18日(日)
午後2時～
牛久市神谷 1-2-2
「栄東ふれあい館」

主 催：県南水道圏内共産党議員団
連絡先：日本共産党取手市委員会
0297-72-7816

4月24日(土) 午前9時 30 分
から、県南水道企業団3階会議室
で値上げなどの「答申」内容説明
会が行われます。



3.11 フクシマを忘れない!! 東海第2原発稼働ストップ コロナ対策の充実で命と暮らしを守ろう くらしと平和を守る取手駅前行動

・ 3月27日(土) 午後2時 東口前
・ 主催：くらしと平和を守るネットワーク取手
戦争させない・9条壊すな！総がかり取手行動実行委員会

菅首相の長男正剛氏が務める放送事業会社「東北新社」から接待を受けていた総務省職員の大部分は衛星放送に関するワーキンググループの事務方職員でした。11人が、国家公務員倫理規程に違反したとして懲戒処分を受け、総務審議官(当時)として接待を受けた山田真貴子元内閣広報官は体調不良を理由に辞職しました。

東北新社は高画質4K衛星放送への参入をめぐり、有利な電波帯域の確保や人工衛星利用料の引き下げを期待して接待をした疑いがあります。しかし、東北新社が放送事業に關して「何らかの優遇措置を受けたのではないか」「放送行政が歪められたのではないか」との疑惑の核心は未解明です。

接待
疑惑

総務省 底なしの癒着
真相究明はこれから

問われる 菅首相の政治責任

さらに総務省幹部らが、NTT社長らから、高額の治療を受けていたことも明らかになりました。総務省から事業計画などの認可を受けるNTTは利害関係者に当たり、接待を禁じる倫

理規程違反は明らかですが、接待を受けた審議官は、違反する会食はしていないと答弁しています。菅政権の看板政策である「携帯電話料金引き下げ」を通信事業者に迫っていた時期と接

待日時が重なっています。「総務省が徹底して調査をされると思う」との菅首相の無責任な国会答弁で疑惑にふたをすることは許されません。菅首相の政治責任が厳しく問われます。



藤井市長が京都祇園で、利害関係者の接待を受けた疑惑の真相究明を求め開催された、超党派議員主催の市民集会
(2019年1月26日、福祉交流センター)